

1. 仁淀高校エコ応援団

生徒：僕たちは仁淀高校エコ応援団です。僕たちは昨年、仁淀川町の地域調査隊として、仁淀川町のゴミ問題についてゴミが不法投棄されていないか調べに行きました。そして不法投棄されたゴミを見つけました。昨年はそこから発展させて調べることができなかったので、今年はゴミをどのようにして減らすのか、再利用できるかを考えたいと思います。

町内に住んでいる人たちに今行っているエコな活動についてインタビューをして、どんな活動ができるかを考え、実行していきたいと思います。

まず、今考えているのは、食品トレーの回収をすることです。仁淀川町では、お肉やお総菜が入っている食品トレーの回収が行われていません。地元のスーパーに回収ボックスがあれば捨てずにすむと考えました。私たちは仁淀川町内のスーパーの協力を得て食品トレーの回収を行い、再利用できるようにしたいと思います。

次に読み終わった新聞や雑誌、チラシなどを回収してエコバックを作ろうと思っています。現在、仁淀川町のスーパーにマイバッグを持参してくる人は多くありません。そこで私たちは自分たちで作ったバッグをスーパーなどに置いてもらって、自由に持って帰ってもらえるようにしたいと思います。買い物用に工夫したものを作りたいと思います。

今年はこのようなエコ活動を多く考え、続けていけるようなことをしたいと思っています。

知事：エコバッグというのは、いろいろな地域でよくやっています。四万十の方では新聞でバッグを作ったりしているのを知っていますか。食品トレーを回収するというのはどういふ話なのかもう少し詳しく教えてください。

生徒：ゴミを捨てる回数が多くなるので、そのトレーを何かに活用できないかなと思った時に、高知市内のスーパーではトレーを回収するボックスなどがあるということで、この町内でもやってみたいなと考えました。

仁淀川町副町長：町においても資源ゴミのリサイクルについては、検討をしているところです。

知事：環境問題については、例えば地球温暖化対策とかが今大問題になっています。二酸化炭素の排出量をもっと減らすということをやっていないといけません、その時に一番頑張らないといけないとされているのが家庭です。工場とか自動車とかは、今までかなり取り組みを進めてきていますが、家庭の取り組みはよくわかっていないのが現状です。しかし、家庭の数はものすごく多いため、一人一人が少し怠った場合、全体として二酸化炭素の排出量がすごく増えてしまうことになります。だから、一つ一つの家庭がしっかりと取り組んでいく、その積み重ねが膨大な二酸化炭素の無駄を省くことになると思います。食品トレーもエコバッグもプラスチックの再利用ができるので、石油の使用量を減らすことができ、それで二酸化炭素の排出量を減らしていく。皆さんも仁淀川町の中で一つ一つの家庭にこういうことをお知らせしていくというのは、いい取り組みだと思います。ぜひ

結果を、どれぐらいみんなが今取り組んでいるかというのをお見せして、どれだけ改善されたかを全体として見ていったら面白いと思います。

教育長：資源ゴミのリサイクルについては、町も検討をしているので、これを契機にもっとよくなるかもしれません。

仁淀川はすごく遠くから見たらきれいです。何度来ても見る度にきれいだと思います。ところが近くへ下りていったら、ゴミ捨て場みたいになっている所もあります。ぜひ地域の人で、若い人が中心となって、遠くから見ても近くから見てもきれいな仁淀川をずっと守ってってもらいたいと思います。